

日 時：令和2年2月13日（木）18時30分 ～20時00分

場 所：大光寺コミュニティセンター

対象地区：大光寺

出席人数：15名

■要望、質疑応答

| 内 容 |
|--|
| <p>○道路側溝への蓋掛けについて</p> <p>（市民から）</p> <p>町会要望した、市道大光寺杉館線（大光寺一滝本 18-1 付近）の道路側溝への蓋掛けについての対応を説明してほしい。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none">・他に優先しなければならない事案があるため、今しばらく時間がかかることをご理解いただきたい。 |
| <p>○排水路の改修について</p> <p>（市民から）</p> <p>町会要望した、小和森小学校周辺に新しく宅地が造成された影響による、大光寺二村井及び三村井地区の大雨の際の浸水解消についての対応を説明してほしい。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none">・現地を確認したが、水路が曲がりくねっているので用地買収をしなければ良くなれないと思う。雨が降った時どのように水が流れているのか把握したいが、浸水以降大雨がないためにまだ確認できていない。水路側溝の拡幅等、どうすれば良くなるのか検討しているためもう少し時間をいただきたい。 |
| <p>○大光寺コミュニティセンターのゲートボール場について</p> <p>（市民から）</p> <p>ゲートボール場の利用者が、水捌けを良くするため、勝手に周囲に溝を掘ってしまっているため、これを直してほしい。また、トイレがないため周囲で用を足している状態なので何とかしてほしい。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none">・管財課で実施中の建設工事による残土を使って、溝を埋める処理を春までに行う。・この件は、以前にも同様の話を伺っており、すでにゲートボール協会に対して事情を説明、注意している。今後も同様の事案があれば同じく対応する。 |

(市民から)

平川市運動施設の多目的広場等、他にゲートボールを行うことができる環境が整備されてきているなかで、大光寺コミュニティセンターのゲートボール場を残していく必要があるのか。

(市から)

- ・そもそもの経緯として、市では、当時の大光寺町会からの嘆願を受けて、大光寺コミュニティセンターの敷地をゲートボール場として使うことを許可している。これは正式な貸借の手続きに則ったものではなく、あくまで合意によるものであり、それが現在まで継続されているのが現状である。
- ・20年くらい前の話なので、見直すということであれば持ち帰って検討する。

○町会加入を促すための市の取組みについて

(市民から)

新しく造成された団地に家を建てた家庭にも町会に加入してもらいたいが、これを援助するような取組みはあるのか。

(市から)

- ・開発を行う前の事前説明会等で町会への加入を強力に促すよう、市から当時の町会長をお願いしている。
- ・市では町会に加入することを条件に加入グッズ（ゴミ袋、ひも、はさみ等）を町会長を通して渡している。また、転入者の方に町会加入を促すパンフレットを配布している。

○町史の基となった資料について

(市民から)

町史の基となった資料は貴重で興味深いものが多く、例えば、明治頃の古地図が以前は図書館で閲覧することができた。しかし、今は尾上総合支所の倉庫に仕舞われてしまったため閲覧できない。どこかにこういった資料を閲覧できる場所を作ってほしい。

(市から)

- ・資料がどういったものであるのかを含めて確認したうえで、連絡する。

○小規模農業者に対する助成制度について

(市民から)

農業者に対する助成は国や県の制度も含めて様々あるが、認定農業者等の大規模農業者に対する助成制度は充実している一方で、個人で小規模に行っている農業者に対する助成制度が少ない。市でこういった小規模な農業者を助ける取組みはできないものか。

(市から)

- ・国や県の補助金においては、認定農業者であることがほとんど必須の条件であるため、どうしても個人の小規模な農業者は対象となりにくい。
- ・近年、農林課では認定農業者以外の方向けの補助事業にも取り組んでいる。詳しいことは農林課に相談してほしい。
- ・認定農業者制度は経営を大規模化して、農家が農業で生計を立てることができるようにする目的で始まったものである。
- ・退職後に趣味のような形で始める方もいるので、そういった方に対する支援も必要ではないかという声があり、議会においても同様の話題があがる。国の制度では難しいので市単独でやらなければならないとも考えている。
- ・ふるさと納税を活用したリンゴのふるさと応援事業のような事例もある。

○子育てに対する支援について

(市民から)

子育てに係る市の支援事業はどのようなものがあるのか教えてほしい。

(市から)

- ・中学生までの医療費は入院・通院の区別なく、自己負担も所得制限もなく完全に無料としている。
- ・出産祝い金として、第三子が生まれた家庭に 30 万円を支給している。
- ・3 歳以上の子どもの保育料、3 歳未満で住民税非課税世帯の子どもの保育料を無料としている。国の制度でも保育料は無料となったが、副食費を負担しなければならなくなったところを市で負担することとした。
- ・インフルエンザの予防接種は小学生まで無料としている。
- ・ひとり親や特定不妊治療に対する助成金もある。
- ・学校給食費として徴収しているのは材料費のみで、1 食あたり小学校は 260 円、中学校は 280 円となっている。消費税の増税の際にも値上げせず同じ金額としている。
- ・生徒数の減少に応じて教員の配置数も減っているが、学習支援員を各学校に配置している。また、学力向上対策として外国語活動支援員を、学校に登校できない子どものために特別教育支援員を配置している。来年度、各種支援員はさらに増やす予定である。
- ・高校、大学に入る際には、奨学金の貸付制度もある。
- ・準要保護者の児童に対する学用品を補助している。これは国の制度であるが、市単独で認定して補助している児童もいる。
- ・学力向上のために、小中学校に一人一台のパソコンが配置される予定である。

○市内小学校の統廃合について

(市民から)

黒石市や近隣市町村で小学校の統廃合が進んでいるが、平川市においても複式学級と

なっている学校の統廃合は考えているのか。

(市から)

- 平川市においては小国小中学校、葛川小中学校、広船小学校が統廃合で無くなった。
- 人数が少ないのは大坊小学校である。市内ではここだけで複式学級を実施しているが、数年後には解消される見込みである。小和森、松崎小学校は生徒数が増えている。
- 統廃合については、教育総合会議で今後の小学校の適正規模とあり方が検討され、市民へのアンケートも行って考えていくこととなる。今のところはどこが無くなるということとは決まっていない。
- 広船小学校が平賀東小学校と統合する際は、全校児童が60名くらいで複式学級もあった。多人数の学校へ行って社会性を身に付けてほしいという当時のPTAの方々の考えもあり、統合することとなった。小さくとも学校を中心に地域でまとまっていくという考え方もあり、一概には言えない。いずれにしても、今後は、市民の考え方も参考にしながら学校の在り方を考えていくこととなる。